

# 能登の 海からのたより

2025.4 No.83



「もう一度ジンベエザメが見たい。」

昨年の被災中に、お客様から頂いた応援メッセージの中で一番多かった言葉です。お客様からの思いを胸に、昨年の10月にジンベエザメの展示を再開することができました。ホッとしたと同時に、ここからが本当のスタートと思い、今まで以上に愛を込めてジンベエザメの「モモ」(新愛称)を飼育していきます。

# タカアシガニ

## タカアシガニとは？

全国の水族館で見ることのできるタカアシガニを見たことや聞いたことがある方も多いのではないでしょうか？当館でもタカアシガニを展示しており、オスとメスの2匹が同じ水槽でお互い干渉せずにのんびりと暮らしています。

タカアシガニはクモガニ科タカアシガニ属に属している5種の中で唯一現存する1種で、他4種は化石でのみ報告されておりタカアシガニも古くから姿を変えていない、生きた化石といわれています。このクモガニ科は名前の通りクモのように脚が長いカニの仲間が属しており、他にもズワイガニやツノガニがあります。長い脚を生かして横だけでなく前後にも動くことができ、岩場も器用に登ることができます。普段は脚先のみを地面につけてバランス良く立っていますが、ときどき座って休憩するような姿もみせてくれます。また、脚を広げた大きさが2m以上にまで成長する世界最大のカニで、最大サイズは3.7mのオスが確認されています。日本では、岩手県から九州までの太平洋の200mより深い海底に生息しており、1990年頃に台湾で捕獲されるまでは日本固有種として考えられていました。太平洋側にのみ生息しているため、当館の位置する日本海側の海では見ることができま



せん。自然界では雑食性で海底にいる魚類や貝類を食べており、当館では主にイカを与えています。2匹で飼育しているため、同時に餌を与えると争いになることもありますので注意が必要です。

## 食べられる？

静岡県の伊豆半島では、駿河湾での深海生物を目的とした底引き網漁が行われており、地元ではタカアシガニが食べられています。タラバガニやズワイガニより身の風味は少なくあっさりしているといわれています。

食べられるんだ！と思うと同時にスーパーでは見たことはない…と思いますよね？それもそのはず、実は静岡県の伊豆半島以外でタカアシガニが食べられるることは少ないです。なぜかというと、生け簀から取り上げてすぐに食べないと身が水っぽくなり、独特の苦みが出てきてしまうという理由があるためです。

## オスとメスの見分け方

これはタカアシガニに限りませんが、カニの仲間は外側から見てオスとメスを見分けることができます。オスはメスより体やはさみ脚（一番上の脚）が大きくなるなど見た目に違いがあり、中でも1番分かりやすいのは腹節（ふくせつ）で「ふんどし」とも呼ばれる、カニのお腹にあたる部分です。メスは卵を抱えるため「ふんどし」が大きく丸い形をし、オスは反対に卵を抱えないため小さな三角形をしています。この様にオスとメスで体の形が違うことを「性的二形」といいます。



左メス・右オス

## ヒメエボシ

今、水槽にいるタカアシガニには水槽に入れた時から、背中や脚に白いふわふわとしたものが付いていました。調べてみたところ「ヒメエボシ」という生きものでした。蔓脚（まんきやく）類といってフジツボの仲間で、蔓脚という熊手のような脚を広げ、プランクトンを捕まえて食べています。実はこれでもタカアシガニと同じ甲殻類なのです。水槽を見ているとヒメエボシが蔓脚をだしている姿も見られますよ！



タカアシガニは「北の海の魚たち」のコーナーで展示していますので、ぜひ来館した際には、オスとメスを見分けてみたり、どこにヒメエボシがくっついているのか見てみたりなど、よく観察してみてください！

[山口]

# 震災により緊急避難したカマイルカの輸送について

能登半島地震の被害を受けたイルカ飼育施設は、2024年11月初旬に全ての修繕を終え、避難を余儀なくされたカマイルカたちをようやく当館に輸送することができました。緊急避難から施設の整備を終え受け入れ体制が整うまで、実際に8か月程度を要しました。避難してい



修繕後、初の注水テストの様子

る間、イルカの飼育員は預けたイルカが元気に戻るその日まで、担当以外の生きものの飼育をしたり、時には施設の修繕やプールの塗装をしたりと多岐にわたる業務をこなしその日を迎きました。



飼育員による塗工作業の様子

イルカの輸送といつても決して簡単なことではありません。避難したイルカは合計12頭に及びます（内1頭は残念ながら死亡しました）。

緊急避難の際は、当館が非常時ということもあり、日本動物園水族館協会や日本水族館協会そしてイルカを受け入れていただいた施設のご支援をいただけたことで、イルカの輸送に係る事務手続きや輸送機材の調達といった煩雑化する作業のすべてを行っていただきました。また実際の輸送についても当館はイルカの搬出作業のみを行い、輸送を含めた以降のあらゆる作業工程を避難先施設の配慮により行っていただきました。

そのような経緯がある中で、イルカを当館に戻すための移送計画については、被災から間もない緊急避難時とは状況が異なり、平時であることから、当館と避難先施設の双方によりしっかりと連携を取りながら計画を進めることにしました。そこで昨年の5月16日に避難先施設である3施設の代表者やその他関係者の協力により、オンラインによるミーティングを行うことができました。そこでの内容はおもに、当館の被災復旧

状況や避難中のカマイルカたちの飼育状況などの報告と、移送時期の検討、輸送に必要な機材の確保や輸送車両の確認などを話し合いました。その中でも輸送時期の検討については最も時間をかけて議論を行いました。時期を決定する上で最も重要視したのは気温です。水中で一定の体温を保ち生活をおくるイルカにとって、輸送時の気温と水温の管理はとても大切なことなのです。長距離輸送の場合は、イルカ専用の担架に収容し、水を貯めたコンテナ内に担架ごと吊った状態で輸送します。身体の半分程



輸送コンテナ内のイルカの様子

度は水に浸かった状態で体勢を維持するのですが、気温が高い時期は水温、気温の調整が非常に難しいことが課題となっています。このことから気温が高い7~10月の輸送を避けるという結論に達しました。

発災から臨時休館となっていた当館は、皆様からのご支援を受け、昨年の7月20日に一部営業を再開しました。およそ7か月ぶりの営業再開に賑わいをみせる中、イルカの展示やショーをお見せすることができない現状に直面していました。営業を再開したとはいえ、イルカ



営業再開にイルカの姿なし

施設においては、プール配管の漏水箇所の特定に苦慮するなど、復旧作業が思うように進まない現状に頭を悩ませていました。

営業再開からおおよそ1か月が過ぎたころ、工事関係者の懸命な復旧工事により、ようやくイルカを戻す道筋が見えてきました。工事にある一定の目途が立ったことで、イルカの輸送について、避難先と具体的な計画を進めて行く段階に移行できたのです。

そしていよいよ輸送日が決まり、その日を迎えました。輸送手段は大型トラッ

クによる陸送で、当館から1番離れた場所にある横浜・八景島シーパラダイスは、距離にして573kmもあり、時間にして実に8時間以上もの道のりです。イルカの輸送経験は当館として決して多くはないのですが、避難先施設の職員も対応していただけたことで、とても心強く感じました。イルカの輸送中はおもに担架上での姿勢補整、呼吸数のカウント、心拍のカウント、体温測定のほかトラック庫内の気温やコンテナ内の水温管理といったことに重点を置くことで、身体的および精神的負担の軽減に努めました



荷台で準備している様子

た。当館に到着直後、どのイルカも輸送の疲れは見られたものの、プール入水直後に自力遊泳を行い飼育員を安心させてくれました。



避難を終え戻ってきた直後の様子

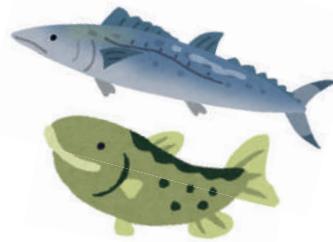
これにより震災に伴う緊急避難を行った生きものの輸送は一部の生きものを除き完了したことになります。国内において、災害関連による動物園や水族館同士での生きものの移動に関する過去の事例は少なからず存在しますが、今回のような急を要する12頭ものイルカの移送を1度に行った事例は珍しいといえます。振り返れば課題や反省すべき点も少なからずあることから、今回の事例を精査したうえで得た経験を多くの方々と情報共有し、今後いつ来るかわからない地震災害に対する備えとして活かしていきたいと考えています。

〔松岡〕



# きょうどりょうり 郷土料理

～料理から生きものを知ろう～



## 郷土料理とは

ちいき 各地域でとれる食材を使い、その地域ならではの調理方法で作られ、食べられてきた伝統料理のことです。

### ゴリのつくだに

石川県では昔から淡水産のカジカ科に属するカジカのことを「ゴリ」と呼んでおり、地域によってはハゼ科の魚もゴリと呼んでいます。見た目は悪いがおいしいと有名です。



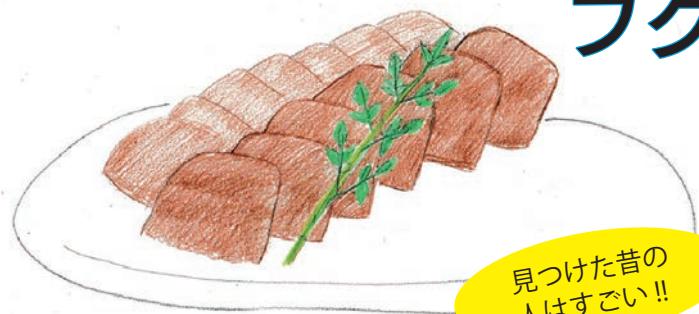
カジカ



きちょう  
貴重

昭和の初めごろはたくさんとれていたけど、河川の工事により生息環境が変化し、数が減ってしまったんだ。

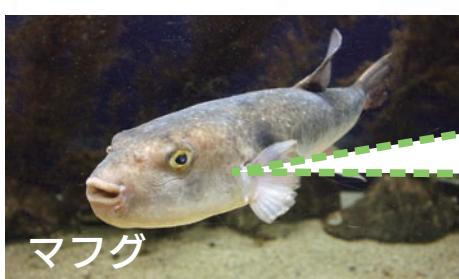
### フグの子のぬかづけ



見つけた昔の  
人はすごい!!

ゴマフグやシロサバフグの卵巣を使用。  
卵巣には毒があるので3年ほどかけて

塩漬けとぬか漬けにして  
毒をぬいているんだそうです。  
どうして毒が抜けるか、  
詳しくは分かっていません。



マフグ

フグ科の一部の種類は内臓や血液、身の部分に強い毒を  
持っているよ。



郷土料理以外にも生きものは食卓に出てくるよ。  
食べた前後に生きものについて調べてみよう！

# ようこそ水族館へ

## ～生きものたちのエピソード～

### 「キヌバリの採集と展示」

当館で展示を続けている魚の1つにキヌバリという魚があります、みなさんはこの魚をご存じでしょうか？

幼魚のうちは群れを成して泳ぐ美しいハゼですが、成長するにしたがい水底でなわばかりを持って単独生活をするようになります。こうなると一般的なハゼの姿とさほど変わりなくなってしまうため、今年も幼魚の姿を展示するべく、採集に出かけました。

春先、地先の海に幼魚の姿が見られ始めると、シーズン到来です。採集するうえで注意すべきことは、出現し始めたるべく早めに採集に出かけるということです。出始めて間もないころは魚体が小さくて泳ぎが遅いという上に、とりわけ警戒心が薄く、比較的捕りやすいのです。採集時期が遅くなるにしたがい、警戒心が増してなかなか簡単には捕まえられなくなる傾向があります。

今年は1月の半ばに採集にトライしました。採集は、塩ビ管とネットで作成した1m四方ほどの角型の網を使って潜水して行います。初回はいつも採集している水族館前の堤防付近では何故か数が少なく、10匹ほどしか採集できませんでした。

後日、再びポイントを変えてトライすると、数十匹の群



れがいくつか見られ、合計100匹ほどが採集できました。ウェットスーツを着ているとはいえ、水温12℃は非常に冷たく、この低温はキヌバリたちにとっても堪えるようで、水深4～5mの所から網で水面まで掬い上げると、体内のガス交換がうまくできずにお腹を上にして浮いてしまう個体が見られました。



採集してきた個体は、少なからず体にダメージがあるため、傷を治す薬が入った予備水槽で少しづつ水温を上げ治療します。同時に冷凍のアカムシやペレットなど、人工の餌に慣れさせ体調を整えていきます。そして、2週間ほど治療した後にアマモ場水槽で展示しました。群れをなして泳ぐ美しい姿をどうぞ早めに見に来てください。



〔國頭〕



### 飼育員がとらえた 奇跡の一叢

#### 『幻のウミウシ』

こちらはめったに見ることができない幻のウミウシ、その名も「ハナデンシャ」。全長が15cm近くにもなる大型のウミウシで、普段は暖かい海に生息していますが、暖流によって南から流された個体がまれに日本海側で発見されます。赤や白、黄色といった派手な体色をしており、その見た目から“花電車”（飾りつけをした路面電車のこと）=ハナデンシャと名付けられました。



今回確認した個体は能登の漁業者の方から寄贈してもらったのですが、当館では少なくとも15年ぶりの確認でした！短い期間ですが展示水槽にも出すことができ、エサであるクモヒトデを食べる様子も観察することができました。本当に珍しいウミウシなので、その飼育に関わることができたという、非常に貴重な経験ができました。

〔義川〕



## 企画展



当館では2025年1月1日から4月13日まで企画展「水族館大解剖展」を開催していました。昨年の震災の影響で一部水槽の破損などもあり、当館を再開館した際も企画展の開催は難しい状況でしたが、たくさんの方々のご支援のおかげで、震災から1年ぶりに企画展を開催することができました。

今回の企画展では、水族館とはどんな施設なのか？飼育員はどんな仕事をしているのか？という、普段お客様がなかなか知ることができない部分にフォーカスを当てました。企画展の解説パネルでは「エンターテイメント施



設」としてのイメージを持たれがちな水族館の「学習施設」や「研究施設」としての側面、飼育員の1日のスケジュールや生きものの飼育業務以外の仕事内容などを中心に紹介し、園館同士でのお互いの飼育に関する情報交換や生きものの交換などの協力体制についても触れました。

平時より水族館の相互協力があるなかで、今回の震災で危機的状況に陥っ

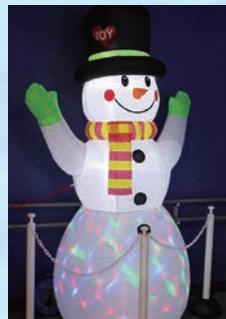
た当館に対して、あらゆる面でご支援をいただきました。不足している展示生物を譲っていただけたこともその1つです。譲り受けた生きものたちを本企画展で展示することで、水族館同士の繋がりを実例として紹介することができました。

被害が大きく、当館の存続についてご心配いただきました。ひいては水族館の存在意義についても耳にすることがあり、水族館そのものに注目が集まっているように感じました。震災から1年後、企画展の再開を「水族館大解剖展」として開催したことによって、普段お客様に紹介することが少ない話題である、水族館の役割や設備、飼育員の仕事などについて、より深くお伝えできたのではないかと思います。

〔義川〕

## クリスマス・お正月イベント

のとじま水族館では、毎年クリスマスの時期になると、館内の装飾や通常のイベントがクリスマスならではの仕様になります。昨年はまだ再開していないイベントが多かったものの、「マダイの音と光のファンタジア」では、クリスマス期間限定の音楽でお届けしました。館内や水槽の装飾について、当館の入館口であるジンベエザメ館入口では、大きなサンタクロースがお出迎えしてくれましたよ！また、のと海遊回廊では、毎年水槽にある観察ドームの周辺に装飾をしますが、ドームの中に入って記念撮影をされている方多く見受けられ、毎年一番の写真スポットになっています。ちなみに、クリスマス期間のみ飼育員が毎年恒例のサンタ帽を被るのですが、照れながら被っている職員もいましたよ！



2025年の年始には、お正月イベン

トが行われました。能登の子どもたちに居場所を提供するとともに、多くの方に癒しの場として楽しんでいただくために、期間内は全ての方の入場料を無料としていました。5日間で9,457人と、たくさんの方々にご来館いただきました。また、数量限定の福袋は好評をいただきまして、1日に完売しました。実はこの福袋、当館の職員がデザインしたんですよ！



イベントとして、元日限定で午前午後の計2回、今年の干支である「巳(ヘビ)」の着ぐるみを着たダイバーが新年の挨拶に来てくれました。この干支に即したイベントは近年行ってい



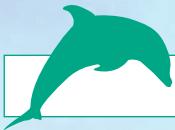
ますが、同じ干支が見られるのは12年後になるので、とても特別感があります。また、1~3日の開館から20分間限定の「ペンギンのお出迎え」では、マゼランペンギンと近い距離での記念撮影を、入館前の多くの方々に楽しんでいただけているように感じました。

水槽では、干支である「巳」にちなんで、「ウミ“ヘビ”」の仲間である『ホタテウミヘビ』の展示を開始しました。



館内を歩いていると、「干支にちなんだ生きものはどこにいますか？」と声を掛けていただくことが多かったです。ヘビというとは虫類を想像する方が多いと思いますが、魚の「ヘビ」にも興味をもっていただける良い機会になったと思います。

今後も、季節や期間限定で、皆様に楽しんでいただける、新たな興味のきっかけや学びに繋がるイベントをつくっていきたいと思います。〔田中〕



2024年1月1日に発生した能登半島地震では、多くの方々が被災され、たくさんの建物が倒壊や損傷を受けました。当館でも大きな被害がありました。

震災から約半年、日数にして201日後の7月20日にいろいろな方々の助けによってなんとか一部再開し、2025年3月22日に全面再開することができました。ここでは7月20日の一部再開から3月22日の全面再開までの歩みを紹介していきたいと思います。

一部再開はしたもの、地震により全国の水族館や動物園に避難している生きものが多くいましたので、まずは生きものたちを戻すことを優先に考えていました。

以前であれば、賑やかな雰囲気の水族館ですが、この時はどこか静かで寂しさを感じました。

本当に少しずつですが、復旧工事が進んでいき、生きものたちを迎える準備が整ってきました。飼育できる環境の整備によく目途がつき、順次避難先から生きものたちが戻ってくるようになりました。

2024年8月26日にゴマフアザラシ、9月3日にコツメカワウソが避難先からそれぞれ戻ってきました。戻つてからは特に大きな問題もなく、順調にエサを食べて元気に過ごしています。

そして、9月10日には避難していた全てのペンギンが戻ってきました。

そしてペンギンが全て戻ったその日に、石川県志賀町百浦（ももうら）沖の定置網にジンベエザメが入網しているとの連絡が入りました。すぐに飼育員が確認しに行ったところジンベエザメの健康状態も良く水族館に運べそうだということがわかりました。誰もが今年はジンベエザメの展示を諦めていたところでの入網の連絡だったのでとても驚きました。入網した個体の大きさは約4.4メートルのメスでした。しばらくは海にある生け簀で馴致を行い10月11日に一般公開を開始しました。

愛称の募集を行い、合計で5436票もの応募の中から愛称は「モモ」に決定しました。のとじま水族館のシンボルでもあるジンベエザメを皆さんにこ



んなにも早く見ていただくことができるのは、本当にうれしいことでした。今も元気に一日約7.5kgのエサを食べています。モモは、これまでのジンベエザメたちとはちょっと変わったところがありまして、今までのジンベエザメが反時計周りで泳ぐのが多いのに対して、モモは器用に転回してどちらまわりでも泳ぐことがあります。モモが何回りで泳いでいるのかを見るのもおもしろいと思います。

続々と戻ってきた生きものたち、残すはカマイルカとカリフォルニアアシカのみとなりました。カマイルカやカリフォルニアアシカがいるプールは、特に損傷がひどく、地中に埋まった配管も損傷していたため、復旧工事はかなり難航しました。どこから出ているのかわからない水漏れが次々と発覚し、一進一退を繰り返すものでした。それでも工事関係者の方の根気強い努力の末に修復作業は完了し、カマイルカを迎える準備が整いました。2024年11月19日に初めの2頭、翌週の26日に4頭、12月5日に5頭のカマイルカたちが、当館に戻って来ました。カマイルカたちは避難先の水族館で愛情深くお世話ををしていただいたので、全頭とも状態がよく、帰ってきてすぐに餌を食べていました。11月29日に、イルカたちの楽園水槽で3頭の



カマイルカたちの一般公開を開始しました。久しぶりにカマイルカたちの泳ぐ姿を間近で見て、ようやくここまで戻すことができたことに感謝の思いでいっぱいになりました。

こうして全ての生きものたちが避難先から帰還を果たしました。飼育も安定し次は、以前のように展示やイベントを復活させていく準備を行ってきました。

そして2025年1月1日には、アザラシのお食事タイム、イワシのビッグウェーブのイベントが1年ぶりにそれぞれ再開されました。さらに1月11日には、大人気のイベントペンギンのお散歩タイムも再開されました。



水族館のイベントや展示など徐々に再開していく中で水族館の施設も徐々に全面再開に向けて、復旧が進んでいました。一部再開時にはまだ立ち入りができないエリアも所々ありました。全て解放することができ、イルカスタンドも地震により傾いてしまったところも修繕が終わり、お客さまを迎える準備整いました。こうして着々と全面再開に向けて水族館全体が徐々に盛り上がっていいくを感じました。

ここまで復活をしてきた水族館ですが最後の仕事というのがイルカ・アシカショーの再開です。これを復活せずして水族館の再生はないと考えていました。みなさんに楽しんでもらうことが何よりの恩返しという思いで、イルカたちとトレーニングを重ね、ついに3月22日に、イルカショーを再開する日を迎えることができました。完全復活を果たしたのとじま水族館ですが、以前のように多くの人が訪れてくれることを願っています。また、ここまでたくさんの方々のご支援と励ましのお言葉をいただいたことに対してこの場を借りて感謝いたします。

[柳]

# EVENT & INFORMATION

## 企画展

### 水族館大解剖展

●開催期間 ～4月13日(日) ※好評につき延長開催

### 魚の感覚展～においや味は感じるの?～

●開催期間 4月19日(土)～8月31日(日)

### 磯の生きもの展

●開催期間 9月6日(土)～12月28日(日)

## 親子で新発見!「飼育員教室」

### 『第1回飼育員教室』

●開催日 9月28日(日)

※要事前  
予約

### 『第2回飼育員教室』

●開催日 10月26日(日)

※各回定員20名(小学生とその保護者) 11:00～15:00

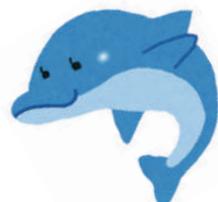
※開催時間・定員は変更の可能性あり



## イルカ・アシカショー

### 夏のイルカ・アシカショー

●開催期間：7月19日(土)～9月12日(金)



## その他

### ・能登の豊かな里海講座

●開催日 5月18日(日)

### ・夏休みプチ講座

●開催日 7月27日(日)・8月3日(日)

### ・水族館裏側探検隊

●開催日 毎週土曜日2回



※繁忙期(4/26 5/3 8/9 8/16 R8.1/3)除く  
定員あり(先着順)

## お得情報

### 入場無料

中学生以下無料

水族館 5月5日(月祝) こどもの日

海づりセンター 5月5日(月祝) こどもの日

7月21日(月祝) 海の日

水族館・海づりセンター共通 65歳以上無料 9月15日(月祝)

中学生以下入場無料 毎月19日 育児の日

※家族で利用した場合に限る



〔平田〕

イベントの詳細や他のイベント情報はホームページをチェック!

のとじま水族館

検索

# 飼育員のお仕事



## 生物搬入

みなさんは水族館で飼育されている生きものがどうやって水族館へやってくるかご存じでしょうか？私たち飼育員は生きものが水族館にやってくることを「生物搬入」と呼んでいます。この生物搬入、ジンベエザメのように定置網にかかった生きものを持ってくることもあります。あれば、飼育員が海に潜って小さな魚などを捕まえてくることもあります。その中で今回ご紹介するのは「マイワシ」という魚の搬入方法です。

のとじま水族館でも飼育しているこの「マイワシ」という魚は漢字では「真鰯」と書き、魚偏に弱いという字が表すように少しの衝撃で鱗がはがれてしまう非常に体の弱い魚です。能登島周辺の海でも毎年見ることのできる魚ですが、ジンベエザメのように定置網にかかったマイワシを水族館まで連れてこようすると移動の途中で弱って死んでしまうことがほとんどです。ではこのマイワシはどのようにして搬入するのか、その方法がこちら。



これは静岡県からここ能登島までマイワシを積んで走ってきたトラックです。このトラックにはマイワシが海水

と一緒に積み込まれており、マイワシが生きていくために必要な酸素を出す装置や海水の温度調節などの機能が付いているため、元気な状態のまま魚を運ぶことができるのです。ここから水槽まで魚を移動するのが私たち飼育員のお仕事なのですが、その移動方法はいたってシンプル、バケツリレーです。マイワシを飼育している水槽は水深約7.5mとかなり深い作りになっているため、魚を入れるときには水槽の上まで運ぶ必要があります。大きなタンクに水を張ってクレーンなどで吊り上げる方法もあるのですが、どうしても時間がかかり衝撃が加わってしまうためマイワシの移動にはあまり適していません。一方でバケツリレーの場合、飼育員はとても疲れますがクレーンなど



バケツリレー



水槽収容

を使う方法と比べると非常に素早く水槽に入れることができるため、マイワシにとっては比較的ストレスの少ない移動方法となります。

そうして運ばれたマイワシたちは、前から水槽にいた先輩マイワシと一緒に群れになって元気に泳いでくれます。魚群ショー（イワシのビッグウェーブ）では最初の頃はまだ環境に慣れていないため新入りのマイワシは動きが少しきちないといった感じですが、時間が経ち環境に慣れたマイワシたちは綺麗なビッグウェーブを見せてくれます。マイワシの搬入のお仕事はここでおしまいですが、今後はマイワシの飼育のお仕事が待っています。綺麗なマイワシを見ていただけるようにこれからも頑張っていきたいと思います。

〔加藤大〕



## のとアクアニュース

2024.10/7～2025.3/31	水族館裏側探検隊開催（毎週土曜日）
10/11	ジンベエザメ（愛称：モモ）展示
10/12～12/1	ジンベエザメウェルカムキャンペーンイベント2024開催）
10/26	北國文化センター主催 初心者のための海づり教室開催
10/29	カリフォルニアアシカ1頭移送（天王寺動物園→いしかわ動物園）
11/9	親子釣り教室開催
11/15	マイワシ搬入・展示
11/17	子育て支援メッセいしかわ出展
11/19	カマイルカ帰還（越前松島水族館）
11/27	カマイルカ帰還（アドベンチャーワールド）
12/5	カマイルカ帰還（横浜・八景島シーパラダイス）
12/14～	ジンベエザメ愛称発表
12/14	サンタが街にやってくる in のとじま水族館開催
12/29～31	休館
1/1～5	お正月イベント開催&入場無料
1/5～2/2	お正月水槽の設置
1/1～3/9	企画展「水族館大解剖展」開催
3/10～4/13	企画展「水族館大解剖展」延長開催
3/20～4/6	新小学一年生入場無料
3/22～	イルカショー再開
3/22～4/6	完全復活キャンペーン開催



ジンベエザメウェルカムキャンペーンイベント2024



親子釣り教室



お正月イベント（ペンギンのお出迎え）

## 実習・職場体験等

10/12	七尾高校生業体験
-------	----------

## 会議・研修会の出席

10/16	(公社) 日動水協 中部ブロック園館長会議（オンライン）
10/29	(公社) 日動水協 バンドウイルカ、カマイルカ合同計画推進会議（オンライン）
11/5～6	(公社) 日動水協 中部ブロック事務主任者会議（福井県）
11/8	安全運転管理者法定講習（七尾市）
11/14～15	(公社) 日動水協 水族館教育事業ワークショップ（北海道）
11/20～21	(公社) 日動水協 設備会議（愛知県）
11/27～28	(公社) 日動水協 中部飼育技術者研修会（静岡県）
11/18・1/23	接遇・クレーム研修（金沢市）
1/10～12	日本動物園水族館教育研究会（福岡県）
1/15	マネジメント研修（金沢市）
1/20～21	(公社) 日動水協 水族館技術者研究会（京都府）
1/31	講師派遣（かほく市）
2/2	講師派遣（金沢市）
2/4～5	(公社) 日動水協 海獣技術者研究会（福島県）
2/8～10	(公社) 日動水協 ペンギン会議（東京都）
2/18	(公財) 日博協 博物館新登録制度：疑問や課題の解決相談会（オンライン）
3/5～6	(公社) 日動水協 中部獣医師研究会（長野県）
3/5～6	(一社) 日水協 水族館研究会（東京都）

